

# DEBUT 首長

岩手県北上市長 高橋 敏彦氏

## 政策評価・改善に市民も参加 周辺自治体と連携し企業誘致



たかはし・としひこ 1955年生まれ。80年日本大学大学院理工学研究科修了、高橋建築事務所（現・高橋設計）入社、2000年社長。北上青年会議所理事長、NPO法人代表などを歴任。11年4月に初当選。趣味は映画や美術観賞だが、視察を兼ね「10年ぶりにスキーをしたい」。

**岩手県北上市** 内陸部にありかつては北上川舟運の中継地として栄えた。半導体や自動車関連工場が立地し、工業団地が8カ所ある。製造品出荷額は県内トップ。人口約9万3千人。

——行財政改革が大きな課題だ。

行財政改革は、伊藤彬前市長が法人市民税や固定資産税の増税など財政面のめどをつけ、財政がこれ以上悪化しない仕組みができた。余裕はないが、2011年度から10年間の総合計画に盛り込んだ施策などを実行するため必要な予算は確保できる。今後は市民からのアイデアを生かす仕組みづくりや効率的な事務の進め方、職員間での情報の共有など、改革の仕上げに優先的に取り組みたい。

——市政への市民参加をどう進める。

総合計画策定にも公募の市民が参加した。計画、実行、評価、改善のすべてに市民が参加する仕組みを作りたい。市の施策が総合計画に合致しているか、市民の要望を取り入れているかな

どを市民に評価してもらうようにする。11年8月に学識経験者による政策評価委員会を設置したので、専門的な観点からも市の取り組みを評価してもらう。

——街づくりや企業誘致にどう取り組む。

中心部に施設や人を集中する「コンパクトシティ」では周辺地域が死んでしまう。アジサイは小さな花が集まって1つの大きな花になっているように、市内の16地域がそれぞれ核となり、地域の活力を発展させ、その集合体としての北上市になるようにする。中心部の「本通り」と東北自動車道北上江釣子ICに近い「江釣子ショッピングセンターパル」を連携させながら商業の活性化を進めたい。

市内の工業団地は東北道のICに近い、分譲価格が安いなどそれぞれ特徴がある。企業のニーズを把握して、最適な場所を提案して誘致を実現したい。周辺の花巻市や奥州市などにも工業団地があり、この地域に企業が進出すれば住民の雇用確保につながる。周辺自治体とも連

携して企業誘致をしていく。東日本大震災からの復興につながるよう、沿岸の港湾を使う業種の誘致にも力を入れたい。

——利用者減で経営が厳しい夏油高原スキー場の支援は。

スキー場があるため、冬季も観光客がかなり来ている。運営会社の夏油高原開発と協力して改善に取り組む。イベント開催のほか、市スキー協会などでつくるタスクフォースにアイデアを出してもらい実行する。スキー場まで北上駅から自動車でも40分程度と気軽に滑りに行ける距離だが、今のリフト・ゴンドラの料金は2～3時間滑って食事をして帰ってくるようになっていない。若い頃滑っていて久しぶりに再開しようとする人、2交代や3交代制で仕事の後に滑りに行きたいという人が短時間でも使いやすい料金制度を作るなど運営会社に提案していく。

（聞き手は

盛岡支局長 水庫 弘貴）